

はんしん@2006

写真・文 山田哲也

■■■29

ために、旧日本車の要請で造られ

た。阪神の社員や学生勤労奉仕隊などをも動員しての突貫工事だった。1943(昭和18)年11月21日に武庫川と洲先間が開業した(当時は、洲先駅は現在の武庫川団地前駅付近にあった)。翌年、省線(当時は、西ノ宮と洲先間の貨物線は58年に休止し、70年には廃線となった)の国営電車、現・JR東海道の西ノ宮駅まで結ばれた。省線と阪神の線路幅が違ったため、線路が3本引かれ、武庫川沿いをSLも走った。45年、空襲で被害を受け、役目を十分果たさないまま終戦を迎えた。48年、武庫川と洲先間の旅客営業を再開。84年には、武庫川団地居住者の通勤・通学の足を確保するために南へ550m延伸し、洲先と武庫川団地前間が開業した。本線の西ノ宮駅まで結ばれた。省線と阪神の線路幅が違ったため、線路が3本引かれ、武庫川沿いをSLも走った。45年、空襲で被害を受け、役目を十分果たさないまま終戦を迎えた。48年、武庫川と洲先間の旅客営業を再開。84年には、武庫川団地居住者の通勤・通学の足を確保するために南へ550m延伸し、洲先と武庫川団地前間が開業した。

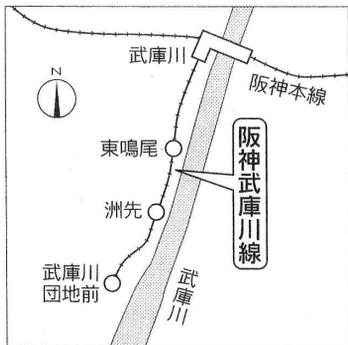
1.7キロ 街中のローカル線

阪神電車武庫川線は武庫川西岸(西宮市側)を武庫川の堤防に沿って走る、路線距離わずか1.7キロのローカル線だ。

武庫川駅を出発した2両編成のワンマンカーは、国道43号の下をくぐり、武庫川団地前駅に向けてゆっくりとした速度で走る。途中の東鳴尾駅、洲先駅は無人駅。約5分で終着駅に到着する。

駅前には外壁が赤、青、黄、緑のカラフルに色分けされた武庫川団地が広がる。駅の東側では、住宅地の造成も始まっている。

武庫川線は第二次世界大戦時、戦闘機を造る川西航空機(現・新明和工業)の従業員や資材輸送のため



阪神電車武庫川線



昼間は20分間隔で運行する武庫川線。1日、約1万人の利用者があり、武庫川～武庫川団地前は140円。奥に見えるのが武庫川団地